

2010年(平成22)7月

カルメル  
**霊性センターニュース**



**7月**

**256号**

# DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう  
——バルバロ訳——



## 第十八章 聖なる教父たちの模範

### 3 徳に富んでいた

彼らはすべての時間を有効に使った。神と過ごす時間はどれほどあっても短いと思い、観想の甘美さのため体を養う必要さえ忘れた。

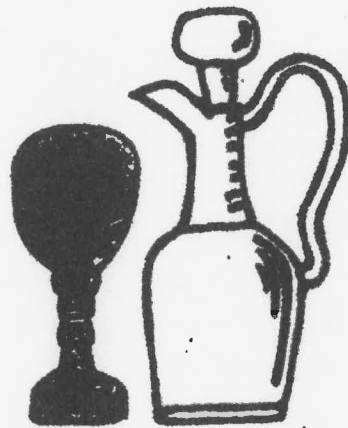
彼らは、財産、地位、名誉、友人、親戚などを捨て、世間の事柄は一切望まず、せいぜい生活に必要なものだけを取り、必要のためとはいえ体のために時間を割くのを嘆いたのである。

彼らは、地上の物には貧しかったが、神の恵みと徳とに富んでいた。外部的な生活はいつも欠乏していたが、内部においては神の恵みと慰めとで養われていた。

### 4 神の親しい友

彼らは世間から遠い存在であったが、神には近く、親しい友であった。自分を無価値な者とし、自分はこの世では軽蔑されるものだと思っていたが、神のみ前には、愛される尊い者だった。まことの謙遜によって、単純に服従して生活をし、愛と忍耐との道を歩んだ。そのため日々徳に進み、神のみ前に大きな功德を積むのだった。(使徒言行録 2・42-47、4・32-35 参照)。彼らはすべての修道者の模範である。多くの冷淡な人々の影響によって墮落するよりも、教父たちの模範によって完徳へと私たちを励ますのである。

心の泉





ナザレの生活は  
非凡な生活ではありませんでした

何ということもない出来事、  
ほとんど何もない単調な生活・・・



このような平凡な生活に  
神の強烈な いのち が潜んでいるのです

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd—

イエスが30年間過ごされたナザレは、今でこそ世界中から巡礼者を魅了していますが、イエスの時代「ナザレから何かよいものがでるだろうか」といわれた寂れた村でした。そんな寒村で30年<大工の息子>として過ごされたイエス・・・そのイエスには父である神からすべての人をあがなうというみ業が託されていました。何という神秘的なのでしょう。地上で過ごされた33年のうち30年もの歳月を人から知られることなく過ごされたイエス。わたしたちが生きるように生きられました。イエスはわたしたちと同じ人間として生きることが何であるかご存知です。

わたしたちはとかく忘れがちです、神から平凡な生活に呼ばれていることを。わたしたちは人々によいことをするために素晴らしい能力を使って、何か素晴らしいことをしたいと思いがちです。

けれども、ナザレの生活はそのような非凡な生活ではありませんでした。何ということもない出来事、ほとんど何もない単調な生活・・・。このような平凡な生活に神の強烈ないのちが潜んでいるのです。そこに信仰、愛、そして希望があります。というのもこの平凡な雰囲気は希望を生き生きとさせないことはないからです、しかも強力に！ \*

しかし、平凡な日常生活の出来事のうちに神の愛の導きを見る信仰のまなざしは不可欠です。「わたしは信じます、しかし、さらに深く信じさせてください。」

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『神と親しく生きる いのりの道』  
聖母の騎士社、2009

## 老成

九里 彰

知らぬ間に還暦を迎えてしまった。還暦と言え、**「村のはずれの船頭さんは、今年六十の…」**という、小さい時、よく歌った童謡が思い出され、何となくいやな気分になってくるのだが、女性にとってはもっと深刻らしい。先日、八十を過ぎた方が、還暦を迎えられたお嬢さんに、**「カー」と言ったら、すぐさま「わかってる。わかってる。最後まで言わないで！！」**と言葉をさえぎられてしまったそうである。この調子でいけば、古希は**「コー」**、喜寿は**「キー」**で終わってしまう。

しかし、老いることは、そんなに忌避すべきことなのだろうか。

確かに認知症になったり、下の世話になったりするの**は、だれもが好むところではない。**ところが現代では、若者であることが最高の幸せであるかのように捉えられている向きがある。だが、以前は逆ではなかったのか。つまり、若者であることは、若造、青二才であり、職人としては半人前、人間としても未熟であることを意味していたのではなかろうか。もちろん、それは、今日のように、医療技術が進歩し、**「恍惚の人」「ぼけ老人」となるまで長生きしなかった時代のこと**であるかもしれない。が、ある原始民族では、そのような老人を、**「神の国に足を踏み入れた人」として皆が敬意をはらうとも、どこかで読んだことがある。**

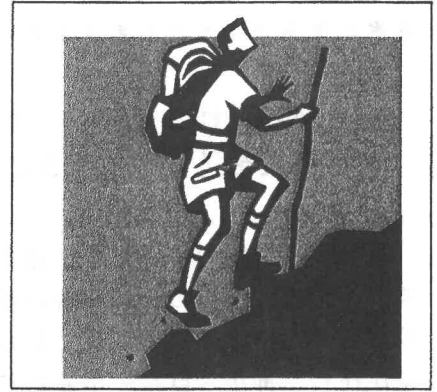
いずれにせよ、若者礼賛の現代文化は、スポーツや映画の中で醸成されてきたようにも思われる。スポーツは体力、映画は美貌やスタイルなど、若さがものを言う。また自然科学の隆盛もその背後にあるかもしれない。科学は日進月歩であるから、若い柔軟な頭でなければついていけないし、新しい技術開発も老化した頭脳ではおぼつかない。

しかし、これらのことは、人間的成熟とか人間的な徳とは、直接関係がない。どんなに人間的に未熟で、道徳的に非難すべき点があろうとも、スポーツのヒーローや映画のスターになり得るのである。そのような者たちが、若者や人々の理想となっていてところに、現代の悲劇があるのかもしれない。

ところが、宗教や哲学の分野では、若いことはそれほど重んじられない。知識ではなく知恵が、また人格全体の成熟が求められてくるからだ。

だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの**「外なる人」**は衰えていくとしても、わたしたちの**「内なる人」**は日々新たにされていきます。(2 コリ 4 : 16)

## ヘンリ・ナーウェンの 旅路の糧 (134)



### 愛の小さな一歩

愛をほとんど感じられない場合、私たちはどのようにして愛の道を選ぶことができるのでしょうか。実に機会があればいつでも、愛の小さな一歩を踏み出すことによって、私たちは愛の道を選ぶことができます。ほほえみや握手、励ましの言葉や電話、葉書や抱擁、丁寧なあいさつや応援するしぐさ、目をじっと注ぐことや手を差し出すこと、贈り物や経済的な寄付、また訪問など… これらすべては、愛へと向かう小さな一歩なのです。

その一歩一歩は、闇夜に輝くろうそくのようなものです。それは、闇そのものを取り去らないのですが、闇の中を行く私たちを導いてくれるのです。私たちが何度も何度も愛の小さな一歩を踏み出した後に、そっと後ろをふり返るならば、私たちは、長い美しい旅をしたことに気づくでしょう。

(0615)

### 勇気ある生涯

「勇気を出せ」と、私たちはしばしばお互いに言います。勇気は、霊的な徳です。勇気(courage)という言葉は、ラテン語の(cor)—その意味は「こころ」—から来ています。勇気ある行為は、心から来る行為なのです。勇気ある言葉は、心から生まれてきた言葉です。けれども、心は、私たちの感情があるところではないのです。心は、私たちの存在の中心、思考や感情や情熱や決断の中心なのです。

それゆえ、勇気ある生涯とは、存在の中心から生きられた生涯のことなのです。深く根をおろした生涯であり、表面的な上滑りした生涯とは反対のものであります。したがって、「勇気を出せ」とは、「あなたの存在の中心に語らせよ」ということになります。

(0626)

(九里 彰訳)

年間第14主日

「刈り入れは多いが、働く人は少ない。だから、刈り入れのために働く人を送ってくださるように、刈り入れの主に祈り求めなさい。」

(ルカ10:1~12、17~20)

イエスは御父の使者です。愛する息子であり、御父が全ての愛を注いだ方です。イエスは世界に人類のための神の愛全てをもたらすために来られた方です。何故なら愛は常に更に伝わることを望むからです。神は愛であり、全ての愛は永遠から神のうちに存在し、神がご自身の生命に参与するように呼ばれる被造物に、常にご自分を注ぎ込むことを望まれます。神であるイエスは、猛威をふるう火のように神の愛がどんどん広がるのを見ることだけを望まれます。(「わたしは地上に火を投げるために来たのである」ルカ12:49)

全ての民族や国家の人々の心の中に愛の火を燃え立たせるために、イエスは弟子たちを二人ずつ送り出します。弟子たちは、生活の全ての場面で自分たちが世界にもたらそうとする愛を表すように呼ばれています。弟子たちはキリストの弟子の結束を証明するために二人ずつ出かけて行きます。彼らは主が他の愛の使徒を呼んでくださるように祈らねばなりません。彼らはゆるし、狼や猛獣によって酷い目に合わされるままになっている子羊のやさしさを真似ようとします。キリストの弟子たちは、聖ヨハネが教えているように、一生ずっと、また死の時さえ、神の愛を表すように呼ばれています。「わたしたちが愛を悟ったのは、イエスがわたしたちのために命を捨ててくださったからです。わたしたちも兄弟のために、命を捨てなければなりません」(一ヨハネ3:16)。

私たちは神の愛があるからといって神の正義や厳しさを忘れてはなりません！ 神のあわれみは神の正義と分離できないことをいつも思い出しましょう。神は限りなく善ですが、限りなく正義でもあります。善に報いる一方で悪を罰します。神の恩寵は私たちを呼び、世界中への愛の宣教においてイエスに従うように私たちを招きます。神の恩寵は強力で、私たちに対する神の愛の最も強力な証しです。しかし、今日私たちに与えられているのと同じ恩寵が、キリストに従うように呼ぶために、再び私たちに与えられないのではないかと思います。今日見落としてしまった恩寵は二度と与えられないのではないかと思います。神の愛の火は救いますし、あわれみに満ちていますが、神の正義の火はソドムに落ちたように破壊的であります。

聖パウロの有名な言葉に「たとえ、預言の賜物があり、あらゆる神秘、あらゆる知識に通じていても、たとえ、山を移すほどの完全な信仰があっても、愛がなければ、わたしは何ものでもない」(一コリント13:2)とあります。たとえ悪霊がキリストの弟子に屈服したとしても、その弟子が神の愛を持っていなければ、目的は何もありません。ですから価値があり、喜ぶべきものはたった一つです。「あなたの名が天の国に書かれること」とイエスは言われます。すなわち、主が天の国で私たちを待っていてくださることを、私たちが神の恩寵によって確信する限り、主が与えてくださる賜物を喜ぶべきなのです。

(Sr. Paulina)



年間第十五主日C ルカ 10, 25-37

「行って、あなたも同じようにしなさい」(ルカ 10, 37)。

これは、イエスがくださった今日の福音の結論です。一人のサマリア人が半死半生で横たわっているユダヤ人にしたように、あなたも行って、敵対関係にある人にも厚い手当をしなさい。「しなさい」、もし、これが、独立した掟のように取られるならば、大きな誤解に導くことにもなりかねません。イエスは、この結論に達する前に、善いサマリア人のたとえを話されました。そして、わたしたちが、善いサマリア人と自分を重ね合わせる前に、半死半生の旅人の立ち場に身を置いてみることを、また、その自分に善いサマリア人がしてくれた行動だけではなく、その時、自分の心の中におこっていた気持ちの変化を想像してみることを、この二つを求められているのではないでしょうか。きっと、このとき癒されたのは、その旅人の体の傷以上に、心の傷であったと気づくのでは、と思うのですが。縁もゆかりもない自分のためにこんなにまで無私無欲に尽くしてくれる人がいる、自分のことだけを考えているのではなく、隣人のために何ができるかを考える人がいる。もし、体の傷が癒され、命が助けられたことをありがたがる場所に止まってしまうならば、わたしたちは、イエスがこのたとえを話された意図を把握していないと言わなければならないでしょう。

この善いサマリア人が、イエスを象徴していることは確かです。「旅をしていたサマリア人は、・・・その人を見て憐れに思い」とありますが、この「憐れに思う」は、痛みを伴う愛を指しています、そして、イエス、あるいは神を象徴する人物を除いて、人間には直接的には使用されていません。「憐れに思う」、これは、現実の人間に自然的には備わってはいないものなのです。神、あるいはイエスによってこの愛を注がれ、罪に傷が癒され、新しい人間に造り変えられて行く、その過程で、わたしたちの中に生み出されてくる可能性なのです。わたしたちにできることは、神の愛が、わたしたちの命の上に身を屈め、ご自分の憐れみ深い愛の透明な像に変えるまで働いている、これを信じ身をゆだねることです。このとき「行って、あなたも同じようにしなさい」とのイエスのお言葉は、真実な福音として体験できるでしょう。「わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです」(1ヨハネ 4, 10-11)。 ルカ 渡辺幹夫

年間第16主日 (C) (ルカ 10:38-42)

“主はお答えになった「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである、マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」”

今日の福音は、高度に象徴的な場所を話題にしています。ここには、人となられた神の子イエスの、神性と人性が豊かに現れています。ラザロを生き返らせたイエスは、この世で、ただ一人の、類のない人に見えます；イエスは初めからご自分のものとして備わっている、神の全能の力を人々の前で示されます。しかしそのイエスは、また、深く愛しておられた友の死を嘆き悲しむ、私たちと同じ普通の人ようにも見えます。ベタニアという村の特別に祝福された場所であるマルタとマリアの家は、イエスの二つの本性、神性と人性が十分に示めされる場所です。人類の救い主という唯一の方の二元性は、イエスがこの家に入られたその瞬間から誰の目にもわかることでした：マルタとマリアという姉妹が主に對してとった夫々の態度が明らかにしています。

聖パウロは“あなたがたはキリストの体です。”(Iコリント 12:27)と言っています。信仰と愛によってキリストと結ばれている人は皆キリストと一つになり、キリストの神秘体を形成します。これが教会です。マルタとマリアが大きな喜びをもってイエスを家に迎えた時、このことが起こりました：マルタとマリアはその無限の愛によってキリストの体となります。“体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。”(Iコリント 12:14)とある通り、人となられたキリストの神性と人性は、マルタとマリアという二人の姉妹各々のうちに別々に見出されます。

こういうわけで、キリストの神性はより多くマリアのうちに現れています。マリアは神の言葉であるイエスの話を聴くために、その足もとに座っています。父なる神と同じ本性を持っておられる御子の言葉を聴くために。“私は唯一の主であるイエス キリストを信じます。創られることなく存在し父と一体である主を信じます。”他方、キリストの人性はマルタのうちにより多く現れています。マルタはイエスへのもてなしに心を砕き、忙しくしています：マルタは活動を通して仕える者の姿を示しています。それはイエスが世を救うために、地上で果たされた使命です。“人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。”(マルコ 10:45)

ただ一つのことが必要です！キリストの二つの本性のうちのただ一つが私たちに必要です。神性です。神の御子がおとめマリアの体内で人となられたのは、御子の十字架上の贖いの功德によって、私たちを一人残らずその神性に与らせるためでした！ただ一つのことが必要です。それはマリアが選んだこと、贖い主キリストの神性です！

(Sr. Paulina)

年間第十七主日 C ㊦ 11, 1-13

「主よ、わたしたちにも祈りを教えてください」(㊦ 11, 1)。

上述の聖句の前に、「イエスはあるところで祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人が」と書かれています。古今東西、人間が生きるころには、「祈り」と名づけられる心の構えが芽生えていることを、わたしたちはよく知っています。そして、イスラエルの民が、賛美、感謝、懇願、改悛の心で父である神に祈る長い伝統に養われた民であったことも。しかし、弟子たちは、イエスの祈る姿を目にして、他の誰の祈りにもない特異的なものを感じ取り、印象深く心に焼き付けられたのです。「ルカによる福音」の特色の一つは、イエスの生涯を、御父との絶えることのない出会い、命の交流として描き、そして、その流れが、あるとき凝縮して、祈りの行為や言葉になった、としていることでしょう。弟子は、「祈りの言葉を教えてください」とイエスに願っていますが、実は、この願いの底には、イエスの祈りの文句を学び、繰り返すことを超えて、イエスのように祈りたい、イエスの祈りに参加したい、イエスが生きておられる御父との特別な親密な交わりに入りたいとの願いがあつたと、言ってよいのです。

「そこで、イエスは言われた。『祈るときは、こう言いなさい』」。イエスが教える祈りの言葉は、イエスの生き方、生きる姿勢の根底に流れる命の秘密が現れてくる窓口です。まず、「父よ」との呼びかけます。イエスの一生は、父への思いに始まり(参照㊦ 2, 49)、また、十字架の上での父への委託で終わります(参照㊦ 23, 46)。そして、重要な場面に、父との交わりが指摘されます(参照㊦ 6, 12; 9, 18. 28; 22, 42)、御父との関わりなしには自分がないことを確認するのです。「父のほかに、子がどういうものであるかを知る者はなく、父がどういう方であるかを知る者は、子と、子が示そうと思う者のほかに、だれもいません」(㊦ 10, 22)。キリスト者の祈るとは、イエスの父へ交わりに参与させていただくことのほかなりません。イエスの御父への思いは、まず二つの願いに現れます。「御名が崇められますように」、「御国が来ますように」。最後に、ある意味でわたしたちがもっとも切実に感じている懇願、必要な日ごとの糧、罪の赦し、誘惑からの保護の願いが続きます。これらの懇願も、一人歩きしているのではなく、先の二つの願いに包まれ、支えられ、自分のためだけではなく、すべての人のために祈るとき、イエスの祈り、御父との交わりとすべての人々への愛から離れさせるどころか、より深く一致させてくれるのです。

ルカ 渡辺幹夫

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (38)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### ドン・キホーテとサンチョと共に？

十字架のヨハネの他の多くの冒険談が、旅籠や人を受け入れ、宿泊させる居酒屋で起こりました。

そのような有名な、というより有名すぎるほど有名な旅籠を、セルヴァンテスは、『ドン・キホーテ』の中で、紹介しています。

セルヴァンテスは、ウベダの町やテレジアのことを関連づけながら、独創的で印象深い描写を行っています。そこには、おそらく十字架のヨハネ修士のものと思われる遺体がセゴヴィアへの移送された時のことが、触れられています。すなわち、「サンチョが自分の主人とすごした思慮深い理由について、また死体や他の有名な出来事によって彼の身に起こった冒険について」。

今は、セルヴァンテスの空想は脇に置くとしても、聖人の遺体移送の物語は、あまりにも不思議なものです。この話は、何の無理もなく『ドン・キホーテ』のこの章に挿入されており、またこの有名な騎士の話しかたにも、ぴったりと合っているのです。

さもなくば、耳を傾けましょう。

「マドリッドからのまっすぐな道を離れて、彼らはハエンとマルトスへきました。マルトスに着く前に、道から遠くない高い丘の上に、突然、一人の男が現れ、大声で、何のために聖人の遺体を運んでいるのか、遺体はそこに置いて、運ばないよと叫び始めました」。そしてますます激しく怒鳴りちらしました。「ああ、ごろつきのサクリスタン（香部屋係）、死者の悪口を言う者たちよ、どこへ聖人を運ぼうとしているのだ」。

これらすべてのことを別にしても、可哀そうな聖人は、生きている時だけでなく、死んだ後も、一この移送において一、旅籠や居酒屋を通過してゆかなければなりません。この時、遺体を入れておいたトランクから、強烈な快い匂いが放たれていたのです。旅籠の人々は、こうたずねたのでした。「あなたたちは一体何を運んでいるのですか… この人たちは何といい匂いがすることだろう」。

# 新刊紹介



## ●イエスの聖テレサ—霊的な人々の母（新刊）

聖テレサを知るための『入門書』。本書は、世界的な聖テレサの研究家である著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、著作や思想を年代順に様々な角度から、きわめて総合的にそして興味深く語っている。祈りを通して、神と出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の真の「自己認識」へと至るためのヒントを与えてくれる。聖テレサを知るための、またとない好著である。

定価：1,155 円（税込み）

著者：トマス・アルバレス

訳者：松田浩一 神父（カルメル修道会司祭）

判型：B6 判並製

ページ数：188 ページ

ISBN：978-4-8056-0473-1

発行：サンパウロ

カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等でご購入できます。

## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 22. 十字架の聖テレジア・ベネディクタ(エディット・シュタイン) (1891-1942) — その6

エディット・シュタインは、1891年10月12日、ドイツ・ブレスラウの敬虔なユダヤ人家庭に、11人兄弟の末娘として生まれた。この日は、その年のユダヤ教の暦では、「贖罪の日」に当たっていた。10代の頃に無神論者となったが、学業優秀であった彼女は、著名なフツサールのもとで哲学を学び、現象学を研究、博士論文は『感情移入の問題について』であった。1921年、友人宅でたまたま手に取ったアビラの聖テレジアの『自叙伝』を一晩で読破、これこそが真理であると確信し、1922年1月1日、カトリック教会で受洗。1933年10月14日、ケルン・カルメル会に入会し、「十字架のテレジア・ベネディクタ(十字架に祝されたテレジア)」という修道名を受ける。後に彼女は語っている。「十字架ということを、私は当時誰の目にも明らかになりつつあった神の民の運命として理解しました。キリストの十字架の意味を知っている者は、すべての人々の名において、その十字架を担わなければならないのだと考えたのです。」

ユダヤ人迫害激化のため、オランダのエヒト・カルメル会に移るが——彼女は、姉妹たちを危険に陥れなくなかったのである——、カトリックの洗礼を受けていた姉のローザとともに逮捕された。真の平和のためのいけにえとして、また、イスラエル民族のための犠牲として、自己をイエスの聖心に奉獻し、1942年8月9日にアウシュビッツで殉教者としてその命を捧げた。ユダヤ人移送列車と強制収容所内で Sr.テレジア・ベネディクタを目撃した人々は、彼女が平静であったこと、子供たちの世話をし、平和の雰囲気の人々にもたらしていたことを証言している。

『十字架の学問』をはじめとする数多くの深遠な著作を書き残し、それらは多くの言語に翻訳されている。1987年5月1日列福。1998年10月11日列聖。1999年10月1日、スウェーデンの聖ブリジット、シエナの聖カタリナとともに、ヨーロッパの守護の聖女として宣言される。



十字架の聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)

— 祈り —

み心は、小さな聖櫃の中で鼓動し、  
沈黙のうちに、白く丸い形で  
隠れた神秘のうちにとどまっておられます。

おお主よ、そこは、地上におけるあなたの王座です。  
あなたは、私たちがそれをはっきりと見ることが出来るように、お建てになりました。  
私がそこに近づくと、あなたは喜びになります。

あなたの目は、愛を込めて、私の目を深く見つめられます。  
私のささやきのことばに、耳を傾けて  
私の心を、最も深い平和で満たしてください。

けれども、このような取り交わりによっては、  
あなたの愛は満たされないのです。そこには隔たりがありますから。  
あなたのみ心は、さらに多くをお求めになります。

朝ごとに、早朝ミサの中で、あなたは私のところに来てくださいます。  
あなたの御体と御血は、私の糧、私の飲み物となり、  
不思議なみ業が成し遂げられます。

あなたの御体は、私の体に神秘的に浸透し、  
私は、あなたの魂が私の魂と一つになるのを感じます。  
私は、もはや、もとの自分ではありません。

あなたは、来て、また去っていかれます。けれども、あなたが  
いつか輝きを放つようにと蒔いてくださった種は、  
塵からできた体の中に隠れて、とどまっています。

燦々と輝く天国の光は  
目の中に、光を深く輝かせ、  
声の中に、音楽を響かせます。

心と心をつなぐ絆は、  
命の流れ、それは、あなたからあふれ出し、  
各肢体にあなたの命を与え続けます。

あなたの愛の驚くべきみ業は、何と不思議なのでしょう。  
私たちは、驚き、驚愕し、その前では無能になってしまいます。  
言葉も、精神も、不十分なのですから。

(「私はあなたと共にいる……」より 後半部分)

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(森卓カルメル会訳・編)

## 懐古

過日、用事があって久しぶりに「つくし野天使幼稚園」に行ってきました。私は昨年未まで母親宗教クラスのために、かれこれ8、9年も通ったり、あるいはそこに住んでいたりとか………ですから私にとってこの天使幼稚園は、大変懐かしい幼稚園でした。

園舎の手前にある建物の2階の教室は、私達姉妹の居室と食堂だったのですが、最近ここを引き上げ、幼稚園に関係するシスターが必要な時に通う、というかたちになりました。そんなわけで、私の受け持っていた母親の7クラスも全部閉じることになったのです。

あれからもう大分歳月が流れたのですが、過日その修道院に置いてきたものの有無の確認のために、久しぶりに、以前通っていたあの時と同じルートでつくし野天使幼稚園に行きました。

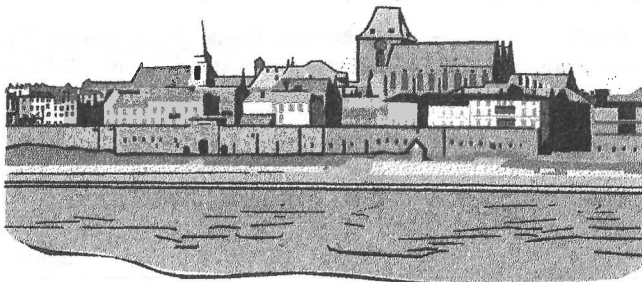
幸いなことに、車窓に移る自然の風景には殆ど変化はありませんでした。多摩川の水量の減ってしまった弱い水の流れとか、つくし野に近づけば木々の緑や、遠方に煙って見える関東の連山などなど……

“ああ、やはり都心よりはきれいだなあ”と、通園していた頃と同じ感覚が蘇ってきました。このようにドーンと座っている時はよかったです。乗り換えの階段とか、プラットホームの番線はどれだったか忘れてしまい、いちいち疑念が湧いてきました。間違い乗車は、時間のミスが多くなるので、多少の恥づかしさをガマンしても、人に聞いたものでした。

懐かしさと同時に、こんなに早く忘れてしまう自分に、改めてがっかりした一コマでした。

お告げのフランシスコ姉妹会

S r. 熊田 照子







7月16日（金）  
カルメル山の聖母

先頃「無用の用」について語り合い、学び合う機会がありました。

「無用の用」とはご存知のように荘子によるもので、一見して益のないもの、無用とされるものが、実は却って大用を成すということといます。

私はこのことに大きく触発されるものがあり、さまざまなことを気がついた、想ったり、考えたりしたのですが、少し書き留めたく思いました。

ごく普通に考えるなら、私たちは誰もが人の役に立ちたい、社会に役立つ人になりたいと願います。世のため人のために働くことは、自身が生きるエネルギーともなって充足をもたらします。事の大小にかかわらず人の役に立って人から喜ばれるその喜びは、我が身の喜びともなります。

社会にとって、人にとって、有用であることは大事なことであり、世界の進歩発展への貢献であり、ひいては自己実現ということにもつながっていくものであるでしょう。

反対に用を成さないこと、無用であることは、やはりごく普通に考えるなら或るマイナスとみなされるようです。

しかし、それでは私たちはどのようにして有用、無用の区別いわゆる仕分けをしているのでしょうか。その基準は如何なるものなのでしょうか。また、有用、無用の仕分けの理由をどのように説明するのでしょうか。

大分昔のことになりますが、キリストと出会って回心したことで、私は全ての支えを失ってしまい、見えない神を死に物狂いで慕う魂を抱えて、当時、深大寺の女子カルメル修道院を幾度となく訪ねました。

遠路はるばる何のために行かなければならないのかと訊かれても、私は答えることはできなかつたと思います。おそらく尋常ではない恰好であったのでしょうか、今は亡き親しい友が何かと心にかけてくれて、辛抱強く話をきいてくれました。その友が後になってこんなことを云ったのを、私は今でも深く心に留めています。

「あの頃のあなたは、ほんとうに淋しそうで近寄りたかつたけれど、何故かそのあなたがとても好きだった。でも、女子カルメル修道会というものは私にはどう考えても意味づけが分からない。それほどの高い志と純粋な意志をもつのなら、何だってできる。人々のただなかに居ることでもものすごい力になる。その志が生かされる仕事は山ほどある。人々はそういう志と意志と

心の清さを常に求めているし待っている。」

友は、(因みに日キ所属のキリスト教徒です。) 稀有な働き手の生産性を訴えたのだと思うのですが、こうした話し合いになってしまう時、私は囲いの中のカルメル修道女の「有用」を説得しようとして、ずいぶん高飛車な物言いをしていたのではないかと自分に問うのです。

女子カルメル修道会を「無用の用」などと云うのでは毛頭ないのですが、友と語り合った時、伝えることのできなかつた心の底の痛みは、今も概念化できないままにここにあります。

如何なる理屈も説明も必要とせず、人の心の深い深い必然として、有用、無用の二分を超えて足りているという「用」なのですが・・・。

愛は世界の共有である。生まれた愛に持ち主はいない。とうたった八木重吉に味わいの深い小さな詩があります。

葉がおちて 足元どころがっている  
すこしの力も のこしてもっていない  
すこしの厭味も ない

おそらくは、ごく普通に考えるなら何の用も成さないであろうこの落葉は、自らの意図もなく、この時この詩人の魂を自らの存在をもって音もたてずにひっそりと救ったのだと思います。

かつての昔、云いようのない苦痛の中、無我夢中で訪れた深大寺の女子カルメル修道会のあの聖務日祷は、40年を経た今この時も同じように常に在り、これからもいつの時も常にこの世に在って、私の魂を支え力づけているのです。私の魂は共なる志向を持って天に向かい、共なる波動を持って地に息づきます。

また、彼の国の人となったかの友とのこの世の記念の友情を、天と地につながる保つのも、カルメル修道女のたゆまぬ祈りと愛のゆえなのだ心深く信じています。

“幸いだ、心の清い者たち、その彼らこそ、神を見るであろうから。”

神さまへ

私があなを私に都合のよい「有用」とすることのないように

私があなたより大きくなってしまふことのないように

どうかお守りください。

# いのちの言葉 6月

自分の命を得ようとする者は、それを失い、  
わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。

(マタイ 10・39)

このイエスのみ言葉を読むと、二つのタイプの命が浮き彫りになります。それは、この世で生きる「地上の命」と、イエスを通して神様が与えてくださった「神聖な命」です。後者は、死によって終わることなく、だれも取り去ることのできない命です。

そこで、人生を送るにあたり、二つの生き方が考えられます。

一つは、地上での生活に固執し、それこそ唯一大切なものだと考える生き方です。自分自身や自分の物、自分にかかわる人のことばかり考え、自分の殻に閉じこもって、自己主張する生き方で、死が訪れると終わりを告げる人生と言えるでしょう。

一方、これとは異なる生き方もあります。地上の命よりもはるかに深い、本物の命を神様からいただいたことを信じ、それを受けるにふさわしい生き方をする勇氣を持つことです。永遠の命を得るために、この世の命を犠牲にすることさえ惜しまない生き方です。

自分の命を得ようとする者は、それを失い、  
わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。

この言葉を語られた時、イエスは、殉教を念頭においておられました。私たちキリスト者は、師であるイエスに従い、福音に忠実であるため、求められる時には殉教の死も受け入れる心の準備が必要でしょう。その時には、

神様の恵みによって、真の命をいただくことでしょう。イエスは誰よりも先に「自分の命を失い」栄光の命を受けられた方であり、「体は殺しても、魂を殺すことのできない者ども」<sup>1</sup>を恐れないうようにと、教えてくださいました。

今もイエスは、私たちにこう告げておられます。

自分の命を得ようとする者は、それを失い、  
わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。

福音を注意深く読むと、イエスはこの事柄を六回も取り上げておられるのに気がつきます。ですから、とても大切なことで、イエスがどれほど重きをおいておられるかが分かります。

ただし、「自分の命を失うように」というイエスの言葉は、殉教だけを意味していません。これはキリスト者にとって、生活の土台となる掟なのです。

ですから私たちは、自己中心的に生きる姿勢を後にする覚悟が必要でしょう。本物のキリスト者でありたいなら、キリストを生活の中心に置くことが求められるからです。

ではイエスは、私たちに何を求めておられるのでしょうか。他の人への愛です。このイエスのお望みを、自分のものにするなら、私たちはおのずと自分自身を失い、真の命を得

<sup>1</sup> マタイ 10・28

ることになるでしょう。

「自分のために生きない」とは、自己の意思を捨てた消極的な生き方のように感じるかもしれませんが、そうではありません。むしろキリスト者は、常に全力を尽くし、全面的に責任感をもって生きるよう招かれています。

**自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。**

自分を与えながら、愛を实践する時、私たちは地上にいるうちからすでに、自分の中に「命」が育っていくのを経験することができます。他の人々に仕え、世話をしながら一日を過ごした時、また、単調でつらい毎日の仕事も「愛の行い」として果たせた時、私たちは、何かを成し遂げて満たされている自分を、喜びのうちに見出すでしょう。

**自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。**

イエスの掟はすべて、「愛」が中心になっていますが、この掟に従って生きるなら、地上での短い人生の後で、私たちは永遠の命を受け取ることができるでしょう。

イエスの最後の審判を思い起こしましょう。ご自分の右側にいる人々に向かって、イエスはおっしゃるでしょう。「さあ、祝福された人たち、お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せてくれた」<sup>2</sup>と。

イエスは、過ぎ去ることのない永遠の命を私たちに与えるにあたって、唯一目を留められるのは、私たちが「隣人を愛したかどうか」だけです。そして、私たちが隣人にした行いを、ご自分にされたこととしてお受けになるでしょう。

では今月のみ言葉をどのように生きればよいでしょうか。命を「失う」ことにより、それを「得る」ためには今から何をすればよいのでしょうか。

人生の終わりに待っている重要で決定的な審判に向けて、準備をすすめましょう。その時のために、私たちは地上に生を受けたのですから。

自分の周りを見渡し、そして、私たちの一日を愛の行いでいっぱいにしましょう。子供たち、妻や夫の中、同僚や遊び友だちの中にも、キリストがおられます。ですから、すべての人に善を行いましょ。また、日々、新聞やテレビ、友人を通して知った人々のことも、忘れないようにしましょう。できる限り、すべての人のために、何かしてみましょ。これ以上は何もできないと感じる時でも、祈ることはできるはずで。「愛」にこそ価値があるのです。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げます。今月の言葉は、1999年6月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

東京近辺の各地でいのちの言葉を読み、生活の中で実践した体験の分かち合いをしています。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：[フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

<sup>2</sup> マタイ 25・34 参照

読者の皆様へ

～8月休刊のお知らせ～

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊  
(7月送付無し)となります。

9月号は、8月下旬発送予定です。

どうぞご了承下さい。よろしくお願い申し上げます。

霊性センターニュース  
係り



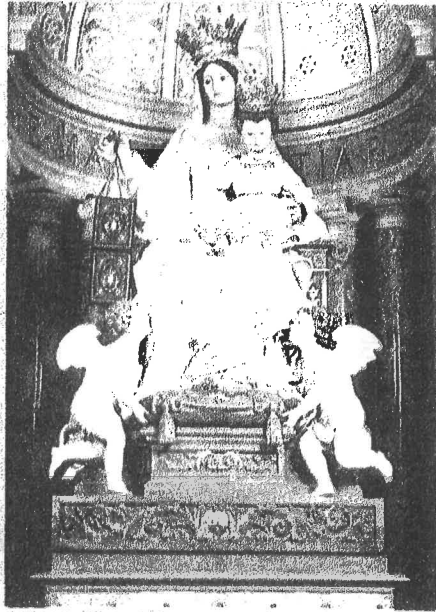
# カルメル会の企画案内







# カルメル山の聖母の祭日と祝会のお知らせ



7月16日（金） カルメル山の聖母の祭日ミサ

6:30 10:00 19:30

7月18日（日） 10:30 カルメル山の聖母を祝うミサ

ミサ終了後 お祝いパーティー（信徒会館1階）

スカプラリオ授与式 9:45・13:00

カルメル山の聖母の祝日を皆様ともにお祝いしましょう！！

スカプラリオご希望の方は当日お申し出ください

上野毛靈性センター '10年6月~'11年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2010年 (毎回金曜日 夕食~土曜日16時)

③ 9月10日~11日

④ 11月12日~13日

①、②終了致しました。

2. 奉獻生活者のための黙想会

2010年

A	7月20日(火) 夕食~7月29日(木) 朝	松田浩一神父
B	7月31日(土) 夕食~8月 9日(月) 朝	福田正範神父
C	8月11日(水) 夕食~8月20日(水) 朝	中川博道神父
D	11月 2日(火) 夕食~11月11日(木) 朝	福田正範神父
E	12月27日(土) 夕食~ 1月 5日(水) 朝	中川博道神父

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時~16時)

2010年間共通テーマ 《道》

9月16日	真福八端を生きるイエスの道	今泉 健神父
11月18日	神の国への道	ベルナルド神父
1月20日	荒野をゆく道	中川博道神父

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時~16時)

2010年度

7月 9日	カルメル山の聖母	福田正範神父
10月29日	アピラの聖テレジア	ベルナルド神父
12月17日	リジューの聖テレジア	今泉 健神父
2011/ 2月25日	十字架の聖ヨハネ	中川博道神父

## 5. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教靈性を求めて一

(毎回金曜日 20時~ 土曜日 15時)新しい企画

松田浩一神父

2010年度

③ 6月25日(金)~26日(土)

④ 7月 9日(金)~10日(土)

※①、②終了。

尚、この企画は社会人(働いている人)の靈的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、靈的同伴・靈的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

## 6. 青年黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

11月20日(土) 16時 ~23日(火) 14時

## 7. 召命黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

10月9日(土) 16時 ~11日(月) 16時

8.祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・ ・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2010 12月24日(金)~25日(土)《講話なし、夕食なし》

9.特別黙想会 伊従信子NDV テーマ:「私は神を見たい」

10月15日(金)20時~17日(日)16時  
(15日は夕食を済ませてご参加ください)

10.待降節黙想会

2010/12月 3日(金)夕食なし~5日(日)昼まで 指導:カルメル会士



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません  
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



# 「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

\*どなたでも いつからでもご参加ください\*

## 2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

7月6日	7月2日
10月26日	10月29日

<お問い合わせ : [carmel-reisei@hotmail.co.jp](mailto:carmel-reisei@hotmail.co.jp)>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして迎えます

担当：中川 博道（カルメル修道会）

\*どなたでも いつからでもご参加ください\*

2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日）

夜のクラス（金曜日）

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

12月7日

12月10日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>



# 「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—  
対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

2010年 予定表

朝のクラス <<10:30~12:00>> 夜のクラス <<19:30~21:00>>

いずれも金曜日

	月日	テーマ	聖書箇所
1	5月14日	「聖書への親しみを持つことから」 天地創造の物語を読む	創世記1章1節~2章3節
2	5月28日	「あなたは誰？」(1) 聖書の人間へのまなざし	創世記2章3節b~2章25節
3	6月11日	「あなたは誰？」(2) 聖書の人間へのまなざし	創世記2章3節b~2章25節
4	6月25日	「人間の問題性」(1) 人間存在の根源的なずれとゆがみ	創世記3章
5	7月9日	「人間の問題性」(2) 兄弟性のゆがみ「カインとアベル」	創世記4章
6	7月23日	「信仰の祖 アブラハム」 信仰を生きるとは	創世記12章
7	9月17日	「人間の問題性からの脱出」 聖書のライトモチーフとしての「脱出」というテーマ	出エジプト記1章~3章
8	10月8日	「人間の問題性に関わる神の本質」 神の名前	出エジプト記3章14節をめぐって
9	10月22日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ1章35節~42節
10	11月5日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを生きるキリスト	
11	11月19日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスの名の由来 イエスの残されたものをとおして	マルコ10章45節
12	12月3日	「キリストに近づく」 —洗礼と永遠の命—	ヨハネ3章1節~21節
13	12月17日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ1章26節~38節

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

## 「カルメル山の聖母」

光輝く清いおとめ

カルメルの美よ、私たちの母よ、お受け下さい、

あなたの子らの ささげる愛と賛美の歌を。



日 時：2010年7月9日（木）

10：00～16：00

指 導：福田 正範師（カルメル会司祭）

場 所：上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会 費：¥3500（昼食付）

お問合せ：TEL.03-5706-7355

お申込み：FAX03-3704-1764

または、Eメールにて

[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



# 木曜黙想会・2010年テーマ「道」

## 「真福八端を生きるイエスの道」

日 時 9月16日(木)

10時~16時

指 導 今泉 健 神父

場 所 上野毛聖テレジア修道院

(黙想の家)

会 費 ¥3500 (昼食付)



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

# 『社会人(働いている人)のための心の休息』

## — 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

⑥ 7月 9日(金)～10日(土)

※①～⑤終了

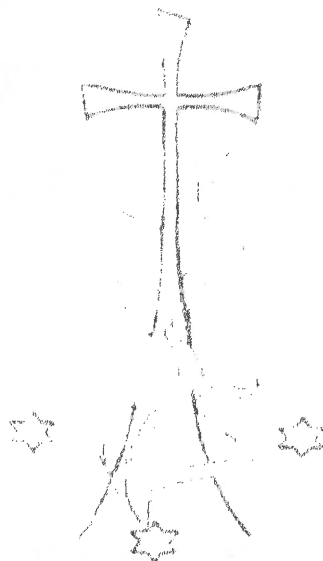
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 03-5706-7355, Fax 03-3704-1764  
E-Mail:mokusou@carmel-monastery.jp



# 聖書深読黙想会

## 〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

\* 日時：2010年 9月 10日（金）18時～11日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

\* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

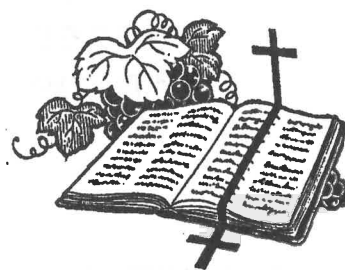
\* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

\* 会費：¥7000

\* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

‘10年6月～‘10年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)
----------------------------------

## 1. 聖書深読

一日 (午前10時から午後4時)

6月26日 (土)	新井延和神父
10月30日 (土)	九里 彰神父
12月11日 (土)	新井延和神父

## 2. 一般のための黙想

一泊二日 (午後5時～午後4時)

7月10日 (土)～11日 (日)	マリア 喜びの人	渡辺幹夫神父
9月25日 (土)～26日 (日)	幼子の平和	九里 彰神父
11月20日 (土)～21日 (日)	神の国が始まる	新井延和神父

## 3. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

7月21日 (水)	カルメル山の聖母マリア	新井延和神父
9月15日 (水)	福音と共にキリストに従う道	Sr. ポーリン
10月13日 (水)	アピラの聖テレサ	アロイジオ神父
11月10日 (水)	三位一体のエリザベット	伊従信子師
12月15日 (水)	御言葉は人となった	九里 彰神父

## 4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

<u>2010年12月</u> 4日 (土)～12月5日 (日)	渡辺幹夫神父
----------------------------------	--------

5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

京 都

9月30日（木）～10月 1日（金）

伊従信子師

6.奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

2010年度

8月 2日（月）～8月11日（水）

新井延和神父

8月18日（水）～8月27日（金）

九里 彰神父

10月12日（火）～10月21日（木）

九里 彰神父

12月27日（月）～ 1月 5日（水）

新井延和神父

7.青年のための黙想（午後4時～午後5時） 男女性のため

11月 6日（土）～11月7日（日）

今泉 健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

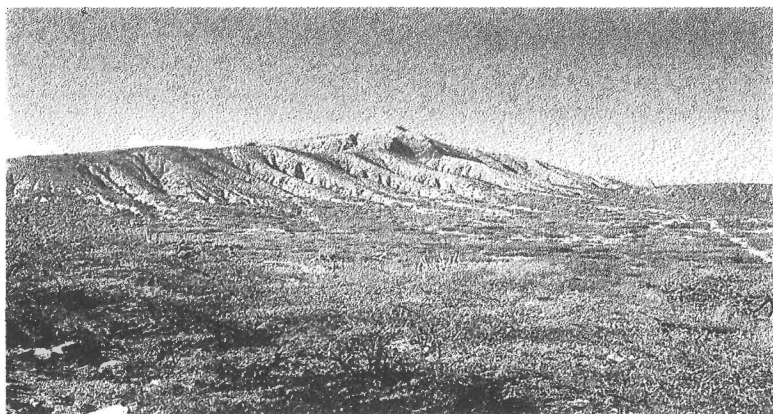
宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



## 「カルメルの靈性に学ぶ」 ～十字架の聖ヨハネの靈性～

1) テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ボスコ社）

（いつからでも参加できます。）

2) 日時：毎月一回 14：00～15：30

6月25日（金）第2部11章～12章

7月14日（水）第2部13章～14章

3) 講師：丸里 彰神父（カルメル会）

4) 場所：カルメル会宇治修道院 信徒会館集会室

《宇治カルメル靈性センター》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel：0774(32)7456 Fax：0774(32)7457

## カルメル会宇治修道院の祭日ミサと講話の御案内

## カルメル山の聖母の祭日 (7月16日〈金〉)

時間：午前10時～12時。

- (1) 午前10時よりミサ。
- (2) 午前10:45より〈カルメル山の聖母〉の講話。
- (3) 望む方は、スカブラリオの着衣式を行ないます。

場所：カルメル会宇治修道院 (修道院聖堂)。

\*いずれのミサ司式は松田浩一神父 (カルメル会士) です。  
また、費用は献金とします。

【所在地・連絡先】 〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
男子跣足カルメル修道会宇治修道院  
TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457  
E-mail [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

- 【交通機関】 ① JR 奈良線 六地蔵駅下車 徒歩 15分  
タクシー乗り場あり。
- ② 京阪六地蔵駅 タクシー 7分
- ③ 京都市営地下鉄 六地蔵駅 徒歩 15分



# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一日静修～（2010）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

第7回	7月19日（月） 祝日	カルメル山登攀の道 ～十字架の聖ヨハネの示した道～	九里彰神父（宇治修道院）
第8回	9月18日（土）	貞潔で、貧しく従順な方イエスに従う歩み	Sr.パウリナ （宣教カルメル修院）
第9回	10月30日（土）	小さき道、幼いイエスの聖テレジア	Sr.ベアトリス （宣教カルメル修院）
第10回	11月23日（火） 祝日	主が教えてくださった新しい旋の道、 『私が愛したように』	三上和久神父（三馬修道院）

### ※第1回～8回終了

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- \* 定員 約30名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:30～ 講話【1】  
～（赦しの秘跡または面接）
  - 12:15～ 昼食  
～（赦しの秘跡または面接）
  - 13:30～ 講話【2】
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会・分かち合い
  - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

### ☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825  
 一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貞船3-2115 小林 厚・晃子  
 TEL・FAX052-701-3685



## 2010年度名古屋聖書深読会

第2回 10月2日(土)

新井延和神父(宇治修道院)

※第1回は、終了。

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会  
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 \*聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

\* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 申し込みは、開催日の3日前までにFaxまたはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



### 聖書深読センター

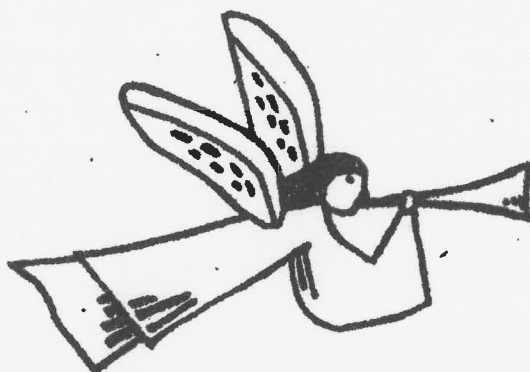
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# 諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

神の恵みを生きる（2010）

ノートルダム教育修道女会

※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の掲載となります。どうぞご了承ください。

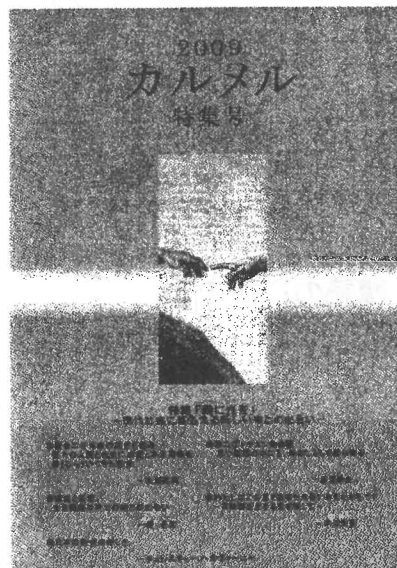
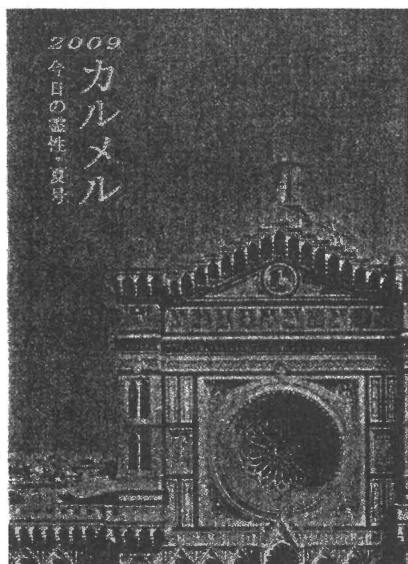
よろしくお願い致します。

編集係り



## カルメル会出版物のご案内

# 「観想」を読むー



### 雑誌「カルメル」NO337(2010 夏号)「今日の靈性」 新発売

- 馬屋の靈性 (6) — 「生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」Ⅱ…高橋重幸  
マリアの旅 (8) …中川博道
- ある聖人の子供の祈り (2) …ペトロ・アロイジオ
- 「どこにお隠れになったのですか」(4)  
—十字架の聖ヨハネに見る靈の旅路 …九里彰
- 聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて(3) …マリー・エウジェンヌ  
編・訳 伊従信子
- アビラの聖テレジアの靈性における自由 (2) …ベアトリス・デクンハ
- 「小さい道」の巡礼者 (9)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
- 作文「かみさまのいじわる」とハイチ地震に思うこと …谷口正子
- 愛の断章 (16) …奥村一郎

## 雑誌「カルメル」2010 特集号 新発売

「父よ、すべての人をひとつにしてください」—司祭職と私たち—

司祭であるキリスト	…中川博道
教会の命を支える信徒の存在意義	…森 一弘
司祭とアヴィラの聖テレジア	…松田浩一
魂の牧者 十字架の聖ヨハネ	…九里 彰
司祭の愛に結ばれた小テレジア	…ベアトリス ・デクンハ

### 購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) できます。定価は、一冊 460 円です。

- 送付希望の方は、600 円【内訳 460 円 (+送料 140 円)】を下記へお振込み下さい。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費 (年 5 冊：春夏秋冬号・特集号【 $460 \times 5 = 2300$  円】、送料分【700 円】) として、3000 円を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356)

## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 内観黙想の予定表

2010年予定

Y2 7/15(木)2時-7/21(水)2時  
神戸・須磨・ヨハネ (6泊7日)

H1 7/25(日)2時-7/31(土)2時  
北海道・問合せ・聖ビアンネ会  
(6泊7日)

N3 8/12(木)2時-8/18(水)2時  
滋賀・唐崎・ノートルダム(6泊7日)

S1 8/23(月)2時-8/29(日)2時  
長野・大鹿村・草々庵 (6泊7日)

M3 9/6(月)2時-9/12(日)2時  
兵庫・売布・女子ご受難会(6泊7日)

F2 9/18(土)2時-9/24(金)2時  
福岡・御受難会黙想の家 (6泊7日)

N4 10/2(土)2時-10/8(金)2時  
滋賀・唐崎・ノートルダム (6泊7日)

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。申し込みは会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎572-0001

大阪府寝屋川市成田東町3-27  
「心のいほり 内観瞑想センター」  
藤原神父 FAX 072・802・5026  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>  
(ホームページ・アドレス)

予約に決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

### お知らせ

2009年10月号より、掲載スペースの関係上、諸所の黙想企画記事を、編集部で集約して打ち込みました。  
各御担当者の皆様どうぞご了承ください。

センターニュース編集係

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

## 真命山 2010年祈りの集いのご案内

---

### 通年テーマ：教父の祈りを学ぶ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

7月 8日	聖アフラハト	Sr. マリア
8月	お休み	
9月 9日	聖エフラエム	Sr. マリア
10月14日	聖ベネディクトゥス	フランコ神父
11月11日	大聖グレゴリウス	フランコ神父
12月 9日	ロマノ メロドス	Sr. マリア

#### 指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

#### （真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

Sr. マリア デ・ジョウルジ

#### 申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流  
センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も  
歓迎いたします。

（要予約）





## リーゼンフーバー講座・集いの案内 2010~11年 NEW

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

### ●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、  
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の  
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の  
関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見よ。  
7月3日、10日、24日、9月4日、10月2日、9日、16日、11月6日、13日、27日

### ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分  
木曜日 18時～20時30分  
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日、同30日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。どなたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も可。

### ●坐禅接心

(秋川神冥窟) 一泊2,400円程度  
6月25日(金)20時30分～27日(日)10時  
8月7日(土)20時30分～14日(土)10時  
9月18日(土)12時30分～20日(月)10時  
10月29日(金)20時30分～11月3日(水)10時  
(上石神井)  
2011年2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分  
5,900円程度  
(宝塚)7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時

### ●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内クルトゥルハイム1階  
右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、  
10月20日、12月29日、祝日休)

### ●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時  
上智大学内SJハウス第5会議室  
黙想、講話、ミサがあります。  
7月10日、8月7日、9月4日、10月9日  
11月13日、12月11日、2011年1月15日  
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分  
クルトゥルハイム1階右小聖堂

### ●黙想

【会社帰りの黙想】  
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。  
(但し、祝日、8月10日、10月19日、12月28日は休。8月24日はクルトゥルハイム聖堂)

### 【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時45分～12時 聖イグナチオ教会  
マリア聖堂 但し、8月3日、祝日休。

### 【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。  
どなたでも。但し、8月全休、祝日休。

【通う霊燥】 8月21日(土)～ 8月29日(日)、18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

### ●黙想会

9月11日(土)10時～12日(日)15時、11月20日(土)10時～21日(日)15時  
上石神井。一泊5900円程度。

### ●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)、上智大学内SJハウス第5会議室 10月16日(土)、2011年1月22日(土)

●クリスマス会・ミサ 12月18日(土)16時30分  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時岐部ホール4階 要申込。ミサ 12月23日(水)14時～クルトゥルハイム聖堂(80人限定)

上述日程等、変更の可能性が  
あります。  
詳細等は、  
下記、リーゼン  
フーバー神父様  
のホームページ  
でご確認  
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座（新年度）

### リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座2010年～2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

6/25 イエスの生き方  
—神に遣わされて人に仕える

7/ 2 イエスの人間関係  
—罪人と弟子と共に

7/ 9 イエスは誰か  
—イエスの自己理解

7/16 最後の晩餐  
—自分を与えるイエス

7/23 イエスの受難  
—その史実と意図

7/20

神の語りかけ  
—神の言葉：預言と伝統

7/24

感謝のミサ(14時、上智大学内  
 Kultウルハイム2階、80人限定)

8/ 3

○休 み

8/17

「契約」と「救い主」の待望  
—神との関わりの基盤  
(会場→Kultウルハイム2階)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

### リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座2010年～2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

クラス・リーゼンフーバー神父

102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124{直通}

-5111{伝言}

Fax 03-3238-5056

### 各回のテーマ

6/29 人生のうちに働く超越  
—神経験の多様な形

7/ 6 「私は在る」  
—旧約における神の自己啓示

上述日程等、変更の可能性がありま  
す。詳細等は、下記、リーゼンフーバー  
神父様のホームページでご確認  
ください。

(7月20日以降、テーマ【人間への神の関  
わり】)

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」  
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

10月9日(土)  
※次々回の予定 11月20日(土)

★7月～9月はお休みさせていただきます。

講話 伊従信子・片山はるひ  
午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
177-0044  
練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)・3594・2247  
Fax(03)・3594・2254  
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com  
ホームページ(NEW)  
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



## 神の恵みを生きる(2010年)

キリストがわたしに目を留められた。  
私を最初に見つけたのは、  
キリストだった。

日時: 7月17日(土)15:00 ~18日(日)15:00まで  
場所: ノートルダム唐崎修道院(JR京都駅から30分)  
指導: 山内 十束 神父(御受難会)  
対象: 独身女性信徒  
費用: 2,000円  
締切: 7月12日(月)までに

申込み・問合せ

ノートルダム教育修道女会 Sr.桂川  
520-0106 滋賀県大津市唐崎1丁目3-1  
Tel 077-579-2884  
Fax 077-579-3804  
E-メール karainorind92@mbe.nifty.com



# 新刊紹介

## ●「テレーズを愛した人びと」

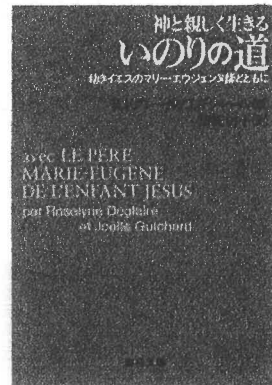
リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響き合っていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー・エウジェンヌ【ocd】、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。伊従信子著 ¥1400 円+税 女子パウロ会 214 ページ

テレーズを  
愛した人びと



伊従信子

1996



## ●「神と親しく生きる 祈りの道」

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

本書で師はわたしたちみんなが呼ばれている聖性の道を示し、神との一致への道へわたしたちを導いてくれます。神を探し求める時、闇につつまれた道程を歩まねばなりません。祈りの道を歩み続けるために光を求める人々の具体的呼びかけにマリー・エウジェンヌ師は自分の体験の実りを本書で分かち合ってくれます。

神との関わりを探し求めている人たちへ

送るメッセージ

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか・・・ 真理、善、美、生きる意味。

R.ドグレール/J.ギシャール=著

伊従信子=訳 ¥525 聖母文庫 207 ページ

## 『靈性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

### 「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

\* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。

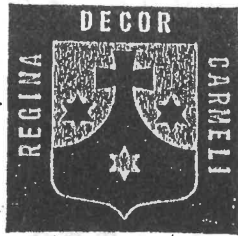
### 編集後記

七月下旬には、日本の多くの学校（小中高）は、夏休みに入る。今でも苦笑せずにおられないのは、小学校時代、毎年作らされた夏休みの計画表である。見事な計画表を作り上げ、その通り実行できた年は、一度もなかったように思う。その意味では、毎年、できない計画表を立てては、ひたすら挫折感、無力感を味わっていたわけで、精神衛生上、あまりよろしくなかった。

そもそも普段、学校で、時間割通り、きちきちやっているのだから、夏休みぐらいいは、もっと自由にのびのびと過ごせるように工夫すべきだったのだろう。が、できあがった計画表は、学校に行っている時と同じようにハードなものとなっていた。すべてを細かく計画し、組織化してゆく能力において、日本人は、世界的にも稀有な民族のように思えるが、これも小学校のころから絶えず訓練されてきたお陰だろうか。

いずれにせよ、私たちが神の子供としてくださる神様のご計画は、私たちの思いをはるかに超えたところで行われ、実現されているようである。

神が私たちが救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、私たちの行いによるのではなく、ご自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいて私たちのために与えられ、今や、私たちの救い主キリスト・イエスの出現によって明らかにされたものです。



## 8月休刊のお知らせ

「霊性センターニュース」は、8月(号)休刊(7月送付無し)となります。  
9月号は、8月下旬発送予定です。どうぞご了承下さい。



## あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日(原則)に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう!!

「9月号」製本日 8月24日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171